

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1071100190		
法人名	特定非営利活動法人いわのや		
事業所名	グループホームふれんど		
所在地	群馬県安中市大谷1088-2		
自己評価作成日	平成28年10月29日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成28年11月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日の食事作り、その他の家事活動などでは、それぞれの方が出来る部分を協力し合い、生き生きと参加される姿が目立ちます。また、散歩の習慣のある方には毎日一緒に歩いたり、居室で過ごすのが好きな方にはそのように、自身の望む暮らしに少しでも近付けるよう努力しています。地域との繋がりで、経営者の自宅を改修したホームということもあり、時には旬の野菜を頂いたり、過去には散歩道にベンチも設置して頂きました。季節に応じた行事、民謡会や地域のボランティアの方々の訪問、お花見や外食会などの外出も取り入れながら、メリハリのある生活作りにも努めています。当ホームでは、家庭的な雰囲気を大切にしながら、「グループホーム」としての意味をしっかりと理解し、1人ひとりの力に応じて自信を持って過ごされ、利用者様主体の生活環境をつくれるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

代表者の自宅を改修した建物であることから建物が地域に溶け込んでおり、また、代表者をはじめ地域の職員が多く、地域との関係を活かし、利用者が地域の一員として生活していけるように外出支援をはじめ日々のケアにあたっている。また、玄関前のスペースに人工池やベンチ・テーブルなどを設置し、天候がよければ日常的にベンチで、外気浴をしたり、猫とふれあったり、景観を楽しんだりしながら、事業所内で完結しない生活が送れるよう支援している。その他、利用者へのアンケート(満足度調査)を年に1回行い、思い・意向・要望の把握に努め、個別支援に活かした取り組みを行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスとしての新たな理念は作成していないが、地域の中で利用者様1人ひとりが、かけがえのない存在であると考え、その人らしく生きていけるよう支援している。職員会議等で理念の共有を図っている。	理念に掲げた「その人らしく生きていける生活実現」に向けた支援として、利用者の望む活動に寄り添うケアを行っている。職員で話し合い、行動抑制せず、1日数回屋外に出たがる利用者には付き添い散歩が行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	時には旬の野菜などを頂いている。・地域の方の芸能発表会などへの誘いを受けている。・地域の盆踊りにも数名参加している。・事業所の行事に地域の方も参加している。	代表者の住まいに併設して事業所があり、地元の職員が多く、職員や利用者も地域の方と関係があり、地域に溶け込んだ存在となっている。そうしたなか、日常的に野菜を届けてくれたり、散歩の途中には会話をしたりなどのつきあいがあり、利用者が外に出たしまった際には声をかけてくれたこともある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・地域の中学校で行っている職場体験学習の受け入れを承諾している。希望生徒があった場合には、認知症の方とのふれ合いや理解を深める場となるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・会議では、サービス、日々の様子や評価への取り組み状況等を報告して話し合い、そこで出された意見はサービス向上に活かしている。・会議には、数名の利用者様も出席され意見を伺っている。	利用者も参加した運営推進会議を開催している。会議メンバー全員から意見を聞くようにし、民生委員から、独り暮らし高齢者世帯の情報を得ている。また、利用者の見守りをするなかでの派出所協力について意見があり、検討が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・運営推進会議には市町村担当者が必ず出席され事業所の実情、サービスの取り組みを把握し協力関係を築けている。	運営推進会議において、その都度情報などを収集している。また、介護保険申請の代行提出などでは窓口を訪ね、事業所の状況を伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束廃止委員会を設けて職員会議等で話し合いをし、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	月1回の職員会議の際に15分の時間をとって、身体拘束について話し合う機会をつくっており、利用者が受けとる拘束とは何かを話し合い、職員は一人ひとりの利用者にあわせた声かけなども含め拘束のないケアにつなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・利用者様、一人ひとりをかけがえのない大切な存在であると考えており、折に触れ“言葉使い”等においても指導に努めている。・関連する研修等があった場合は、積極的に参加していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・日常生活自立支援事業を活用されている利用者様がいる。関連する研修等があった場合には、積極的に参加し理解を深めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・利用者様やご家族に不安がないように十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・意見箱や各居室に苦情相談の貼り紙をしている。・利用者アンケートの実施。・毎月の介護相談員による介護相談の実施。・運営推進会議には全家族へ参加の呼びかけ、利用者様も数名参加している。	家族からの意見は、意見箱の設置、面会時の交流などから受けとっている。利用者への「質問票」を作成し、年に1回25項目のアンケート(満足度調査)を行い、満足度などを把握しながら、必要な情報をケアプランに反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等において、意見や提案がないか聞く機会を設け反映させている。	月1回開催する職員会議を、意見聴取の機会としている。日常的に休暇希望を受け取り、勤務表作成を行っている。管理者は、話しやすい関係を維持できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・休日の要望をほぼ全て受け入れ、働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・介護職員初任者研修受講など、段階に応じた研修が受けられるよう取り組んでいる。・会議で研修報告をし、関係資料や書籍等の回覧をし内容を共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・地域密着型連絡協議会に加入している。・機会があれば同業者との交流を通じ、サービスの質の向上を図っていききたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・心配事、不安な事、求めている事等がないかをよく聴き、受け止めるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・相談から利用に至るまでご家族等とよく話し、不安な事、求めている事等を聴き、受け止めるよう努めている。・特に入居されて間もないうちは、電話やメール等で状況を伝えたり、要望等を聞くなど不安がないよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・必要に応じた対応に努めている。・その方にあつたケアプランの作成。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・職員は常に利用者様から学ぶ立場にあり、様々な生活の場面でそれを大切にしている。・毎日の家事活動は利用者様と共に行い、そこから学ぶものはとても多く、職員との支えあいの関係の一つになっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・利用者様に対する情報交換を積極的に行い、共に支えあう関係作りに努力している。・可能な範囲での医療受診時の付き添いの依頼。・不穏時など状況に応じてご家族が電話対応等で協力して下さっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・馴染みの人や場所との関係を出来る限り続けられるよう、ご家族等の協力も頂き、支援に努めている。	アセスメントで収集した一人ひとりのエピソードを反映し、散歩や外食、知人との交流につなげている。そうした実践のなかでの会話からも、あらたな情報を得て、支援に努めている。幼なじみ同士の利用者には、職員がパイプ役になって関係が維持できるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者様同士の関係の把握に努め、お互いに支え合い、良い関係作りができるよう支援している。・関わり合い、支え合えそうな方同士、話の合いそうな方同士、席を近くしてみる等。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退居されても、これまでの関係性を大切にしながら必要に応じ、本人やご家族の経過をフォローしていきたいと考えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日々の会話の中でご利用者から聴き出せるよう努めている。・ケアプラン作成にあたり、改めて思いや暮らし方の希望、意向などを聴き出せるような場面を設けている。・利用者アンケートの実施。	利用者の日々の様子、言動、行動などから意向を汲み取るよう職員と話し合い、本人本位に検討して把握している。また、利用者に対するアンケート(満足度調査)から得られた意向を、介護支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、サービス利用等についての把握に努めている。・本人及び家族、友人、知人、サービス利用先施設等からの情報を収集して個別に記録、管理している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・一人ひとりの総合的な状態を把握できるよう、職員それぞれが観察し、記録や申し送りにて共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・サービス担当者会議では本人、ご家族、関係者等で意見を出し合い、それらを十分に反映した個人に応じた細かな介護計画を作成している。・月1回モニタリングの実施	日々の介護支援の必要性を話し合い、介護計画を作成しているが、介護支援の内容を重視する傾向にあり、真のニーズの共有が図られていない事例もある。	利用者の生活における課題・目標を職員皆で共有し、活用できる介護計画作成に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の様子で気になった事柄や本人の言葉は、個別記録に記入し確認し合い情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。・日々の記録等からアセスメントし実践や介護計画に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・本人やご家族の状況、その時々々の要望に応じて通院や毛染め、自宅の様子を見に行ったり、行ってみたい場所に行く等々の要望に対応するなど柔軟な支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・オカリナ、アコーディオンの演奏会など地域のボランティアの方々の協力を得られている。・外出時に社会福祉協議会より、車椅子対応の車を借りて出かけることもある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・納得が得られたかかりつけ医から適切な医療が受けられるよう支援している。・希望により、訪問歯科診療やご家族の協力にてかかりつけの専門医を受診される方もいる。	家族、本人の希望を聞き取り、継続したかかりつけ医の受診が行えるよう支援をしている。また、事業所の協力医による月1回の訪問診療があり、職員は日常の様子や異常があるときは必要な情報提供をして受診を行い、家族にも電話やメールで報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・現在は、看護有資格者は在職しておらず、訪問看護サービスの利用もない。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・早期退院に向けて本人の体調を一番に考えた上で、担当医と十分な話し合いをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・重度化や終末期に向けた指針を作成し、本人、ご家族から同意を得て職員間で共有している。	入居時に看取りの指針に基づき説明しており、重度化の段階(医療行為が必要になった段階)で、再度、家族に説明することになっている。協力医との連携により、これまでに看取りを1例行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・救急時の対応について人形を作り、定期的に勉強会をしている。・ファイルを作成しいつでも見れるようにしている。・救急時の対応についてのマニュアルを掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・防災計画を立て年2回避難訓練や消防署立ち会いの避難訓練の実施。・毎月の自主防災訓練の実施、防災チェック、避難訓練には地域の区長様方にもご協力いただいている。	年2回の避難訓練を行い、毎月の職員会議のなかで時間をとり、自主防災の確認や検討をしている。建物が土砂災害危険区域にあるため、市や警察から土砂災害が発生した際の避難方法や避難場所などについて検討するよう指導を受けている。	あらゆる災害に備え利用者が避難できるよう、指導をもとに安全対策が講じられることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・1人ひとりのプライバシーに十分配慮した言葉掛け、個人情報の取り扱いを行っている。・通信物のインシヤル化や職員間のみでわかる言葉や番号で会話や記録物の管理をしている。	プライバシーに配慮したケアに努めているが、利用者の人格を尊重した支援を行う上で求められる利用者一人ひとりが大切にしていることの共通認識が、十分ではない。	言語化できなくなった方においても、大切にしていることの把握を行い、管理者・職員が共通認識のもとで、日々の支援に取り組まれる期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・わかるような説明の工夫や自己決定していただけるような声かけの工夫に努めている。・時には好きな飲み物を選択できる日を設けるなどしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・毎日散歩に行きたい方に付き添ったり、好きな時に外気浴されたり、居室でラジオを聴いて過ごしたい方はそれを優先したり、余暇活動等も本人に確認しながら行い、その人らしい暮らしを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・外出時には特別なお洒落の支援。・2か月に1度、馴染みの美容師の訪問や決まった日以外でもカットや毛染めの支援など臨機応変に対応。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・毎日の食事作りや片付けは、出来る事は皆で協力して行っている。月1回程度、おやきやうどん作りを行い職員共々、楽しい時間を過ごしている。・検査者が一緒に食事をしている。・朝食準備を毎日手伝ってくださる利用者様がいます。	夕食は業者の調理したものに若干手を加え、朝・昼食は材料を仕入れて職員が調理して提供している。アンケート(満足度調査)を参考に、利用者が食べたいものやなじみにしてきた食事の提供を心がけている。可能な利用者には、準備などを手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・カロリー計算の勉強から大まかな栄養バランス、摂取カロリーについては理解でき、それを参考にしながら献立作りをしている。また全員の毎食の食事量、水分量も記録している。・糖尿病の方の食事にも配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後の歯磨きの声掛け、見守り。その方の状態によっては一部介助により、清潔の保持に努めている。・訪問歯科診療での医師や歯科衛生士のアドバイスを参考にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・トイレ確認表に記録することで全員の排泄パターンの把握に努め、適時トイレへの声かけや誘導、状態に応じては夜間居室へのポータブルトイレ設置等の工夫をしている。	排泄が困難な方には、排泄確認表により時間誘導を行い、トイレでの排泄ができるよう支援をしている。トイレでは、自分でできることは極力やってもらうようにしながら支援にあたっている。その結果、紙パンツから布パンツやパット利用になった利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・体操等で体を動かす工夫や、水分の勧め、利用者様の状態によっては主治医より下剤等を処方していただき、排便記録をつけて観察をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・週2回の入浴日を設けているが、希望があれば入浴日以外でも入浴できるようポスターにて掲示や声かけをしている。また、状態に応じて清拭、シャワー浴等は適宜行っている。	入浴は週2回としているが、それ以外でも入浴できる。入浴の際は、コミュニケーションを重視して介助している。気のあう利用者と入浴ができるようにしたり、入浴を拒むことが多い利用者には、入浴を促す家族の声をテープで聞かせたりして、支援にあたっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活の観察や状況に応じて休息を勧めたり、夜間に於いては寝る前に話を聴いたり、菓子等食べていただいたり、不眠がちの方には主治医と相談しながら安定剤の支援などもしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・間違えのないよう一人ずつ確認してから服薬。内容については個人の医療ノートに記録、変更があった際には日誌の申し送り欄に記入し職員間で共有。・症状の観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・各々の生活歴を把握し、その時々本人の言葉なども踏まえながら、役割作り(バイタル記録の記入、カレンダーめぐり、皆の前で挨拶等々)や気晴らしの支援(歌、散歩、外気浴、自販機等々)に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	・兼ねてより希望があった場所や自宅の様子がみたいという方のために外出帰りに立ち寄ることもあり。・ご家族の協力により、墓参りなどに行かれたり、外出される方もおられる。・季節にもよるが外気浴は日常的におこなっている。	花見や外食などの行事での外出のほか、玄関アプローチには人工池やベンチコーナーがあり、日常的に屋外に出て過ごす習慣をつくっている。1日数回散歩を楽しむ方には付き添いをしたり、ベンチ周りでは猫とふれあったりなど、外気にふれる機会を大切に支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・事務所で預かっている所持金から、自動販売機にて好きな飲み物を好きなだけ購入している方もいる。・家族の協力のもと、外出時など希望に応じて買いたい物が買えるよう常に伝えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・利用者様の希望時に電話をしたり、年賀状を出される方もいる。・事務的な用事でご家族への送付物がある際、手紙を入れますか？と時々聞いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・共用空間では、居心地良く過ごせるよう家庭的な雰囲気作りや季節感を採り入れて工夫している。・利用者様にとって不快な音や光りなどが無いよう配慮している。	玄関前の庭のスペースを活用し、人工池やその周りにベンチ、イス、テーブルを配置して、利用者同士が外気浴も兼ねてくつろげる、景観を楽しむことができる居場所づくりがされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・僅かなスペースではあるが1人になれたり、気の合った利用者様同士が過ごせるような居場所がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入居の際や家族面会時に利用者様と相談しながら、使い慣れたものを持ってきて頂き、居心地良く暮らせる工夫をしている。	居室は、事業所が提供するベッドが置かれている。入居時には、なじみのものの持ち込みを説明しているが、居室でも居心地よく過ごすための意識した取り組みはされていない。	理念に掲げている「その方らしく生活することができる」を実現するために、居心地よく過ごすことができるような環境づくりに期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・生活歴や日々の暮らしにおいて一人ひとりを十分に観察し、わかる力をできる限り活かし維持できるような工夫をしている。・居室の名前、トイレ、台所等表示し、わかりやすくしている。		